

## バカ殿様の召天

バカ殿様で人気タレントの志村けんさんがコロナウイルス感染で突然この世を去りました。「ばかやろ！なぜ、こんなに早く逝ってしまうのだ。」と多くのひとびとが彼の死を悼んでいます。

メメントモリはラテン語で「必ず死ぬことを忘れるな」と意味です。中世ヨーロッパでペストが大流行して多くの人が亡くなった時に流行した言葉です。王でも富豪でも全ての人間は百パーセントこの世を去らなければなりません。

## 地上は人生の舞台

「こうして私たちは、世界に対し、御使いたちにも人々にも見せ物（芝居の役者）になりました。」（新約聖書コリントの信徒への手紙第一、四ノ九）キリスト伝道者パウロの言葉です。わたしたちは、いかなる人でも、人生の舞台上で自分の役を演じるのです。志村けんさんはテレビの舞台から消えたばかりか、人生の舞台からも消えてしまいました

## 天国は人生の永遠の舞台

志村けんさんが、今、天国で新しい番組を作っているかどうかはわかりません。事実、天国は、この世とは、環境も生活状況も雲泥の差があります。この世界では多くの人は志村けんさんのような有名人でなく、金持でなく、報われない人生を強いられています。特にコロナのために、最愛の家族と会えないで寂しくこの世を去る方々もあります。また、突然解雇されて、一日の糧もない方々が沢山おられます。夏の高校野球を目指して練習を励んでいてもコロナの為中止になって目標を失った人が多くいます。しかし、そのような中であっても真の神様を信じている方は、この地上で思うような人生を送れなくても、死のない永遠の人生の舞台が備えられています。

金持ちとラザロの話（新約聖書ルカの福音書 16:19~26）。

ある金持ちがいました。ブランド品を羽織り、毎日贅沢三昧の暮らしをしていました。金持ちの門前にラザロと言う乞食がいて、家から出る残飯で飢え凌いでいました。ラザロは全身おできがだらけで痒くてしかたがありません。しかし、彼を助ける人はいません。犬がおできをなめてくれるだけでした。ある朝ラザロがだれにも看取られず寂しく世を去りました。続いて大金持もなくなり、かつてない豪華な葬儀が行われました。これば人生の最終の舞台の演技です。次からは、神様の御前で演じる天国という檜舞台での演技です。金持ちが目覚めると炎の中で、喉は渴き、地上では味わったことのない苦痛でもがき苦しみました。ふと目を天に向けるとなんと、自分の門前で乞食をしていたラザロが見違えるような姿に変えられ、アブラハムの懷に抱かれていました。金持ちは叫んで、「ラザロに水を持ってこさせてください。そして私の唇に浸すようにいってください。」と頼みました。アブラハムは「子よ、思い出しなさい。おまえは生きている間、良いものを受け、ラザロは生きている間、悪いものを受けた。しかし今は、彼はここで慰められ、おまえは苦しみもだえている。そればかりか、私たちとおまえたちとの間には大きな淵がある。ここからおまえたちのところへ渡ろうとしても渡れず、そこから私たちのところへ越えて来ることもできない。」

あなたは永遠の人生の舞台をどこで演じようとされるのですか。ラザロのようにアブラハムの懷である天国で演じることができるようにはしようではありませんか。ぜひとも、私たちの教会へおこしください。そして、天国で永遠の人生の舞台を共に演じようではありませんか お越しをお待ちしています。